

生涯学習課長の仕事宣言！ 進行管理表

生涯学習課長 佐藤 敦美

重点事業の概要 〔事業名：生涯学習支援事業〕〔目標値：アンケートの実施1回〕

- この事業は、リープロ5「未来を創る人を育てるプロジェクト」に位置付けられた取組みである学習機会の充実を図るために実施する事業です。具体的には、市民の学習ニーズを把握し、必要な情報の収集・提供に努め、市民の主体的な学習活動を支援します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	各種講座や教室、その他講演会などの学習に関する情報を市報、ホームページ、チラシ等で市民に提供した。 まちづくり推進センターにおける各種講座・教室やサークル活動を「まちづくり推進センター活用ガイドブック」として冊子にまとめ、市民に情報提供した。
	自己評価	まちづくり推進センター職員会議などにおいて、多様な学習プログラムの企画や主体的な学習活動への支援の方法について情報の交換・共有化を図っている。
	下半期への対応	市民協働推進課と連携し、市民の学習ニーズを把握し、まちづくり推進センターにおける地域住民の主体的な学習活動の支援を行う。
下半期	取組実績	毎月行われるまちづくり推進センター職員会議において、学習講座や教室を充実するために各種情報を提供し、社会教育の視点を踏まえた助言・指導を行った。また、勤労青少年ホームや同和教育集会所においても各種講座・教室を実施し、更に市民の自主的な生涯学習の場の提供を行った。
	自己評価	市民の生涯学習を支援するため多様な学習機会を提供した。
	目標値の達成状況	各種講座・教室、講演会等の参加者のニーズを次年度の事業計画の参考とすることができた。
	次年度への対応	地域住民の課題解決や学習ニーズに対応した各種講座等を企画・立案し、生涯学習事業をより効果的に展開する。 学習の成果を地域社会に活用する仕組みを探る。

教育長（リープロ担当部長）の指示

上半期

- ・ 昨年度の実施したアンケートの結果の考察や講座受講者の声等を参考にして、市民の為の「生涯学習の場」として、推進センターの講座や・サークル活動の活性化を図ること。

下半期

- ・ 同和教育集会所で実施された『筆ペン・ボールペン講座』等、市民のニーズに応えたタイムリーな講座が実施できた。今後も、様々な各種講座や・教室の充実に向けて、市民の生涯学習を支援するため多様な学習機会の場になるように、さらに講座内容の充実や検討に努めること。

生涯学習課長の仕事宣言！ 進行管理表

生涯学習課長 佐藤 敦美

重点事業の概要 〔事業名：放課後児童健全育成事業〕〔目標値：750人〕

- この事業は、リープロ5「未来を創る人を育てるプロジェクト」に位置付けられた取組みである留守家庭児童の居場所づくりの充実を図るために実施する事業です。具体的には、共働きなどによる留守家庭児童が、放課後や土曜日、長期休業中などに、安心して過ごすことができる「なかよし会」の充実を図り、運営団体である鳥栖市放課後児童クラブ運営協議会へ支援を行います。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	利用者増に対応するため、クラブの分設（若葉小B）を行うとともに、指導員配置の見直しを行った。「なかよし会」を運営する放課後児童クラブ運営協議会と民設民営の「アフタースクールあいあい」を運営する社会福祉法人和貴福祉会に対し補助金を交付した。 本年度より施設の定数を定め、保育環境の改善に努めた。また利用対象児童については全学年とし、学年による利用制限を撤廃した。 10月1日現在、入会者数は565人、待機児童数は15人であった。 子ども・子育て支援事業計画における量の見込に対応した確保方策を検討した。
	自己評価	放課後や土曜日、長期休業中に安心して過ごす生活の場を提供できた。 クラブによっては入会ができない児童（待機児童）が生じている。
	下半期への対応	「なかよし会」の運営団体である運営協議会、「アフタースクールあいあい」を運営する社会福祉法人和貴福祉会への支援を継続して行う。 また、子ども・子育て支援事業計画に沿い、次年度の学童保育について施設の整備方針、運営方法の検討を進める。
下半期	取組実績	「なかよし会」については、入会できない児童（待機児童）について毎月審査を行い、退会での定数の空き状況に応じて追加で受け入れを行った。また、同時に指導員・事務員の確保を行い、適正な配置ができるよう努めた。2月現在、入会者数は525人、待機児童数は5人。（通常期）
	自己評価	留守家庭児童の居場所を提供することができた。
	目標値の達成状況	本年度の入会申込児童総数は863人だった。（1月末現在）
	次年度への対応	「なかよし会」の充実と運営団体である鳥栖市放課後児童健全育成事業を行う運営団体へ支援を継続して行う。 また、なかよし会の運営の在り方について庁内や関係部署等と協議を行う。

教育長（リープロ担当部長）の指示

- 上半期 ・利用者増の中で、法律改正後の事業として、安心して過ごすことが出来る「なかよし会」を目指して教室や指導者確保等に努めること。
・運営協議会や民営の施設との連絡調整や支援を行い、今後の効果的な放課後児童クラブのあり方について検討を行うこと。

- 下半期 ・2月現在の待機児童数は5名で、法律改正後の「なかよし会」の運営は、多くの課題があるが、概ね実績を上げている。来年度の入会希望児童と受け入れ状況について検討を行い、指導員の確保等、今出来ることから働きかけ、入会希望の児童数確保に努めること。
・運営の在り方について、課題整理を行うこと。

生涯学習課長の仕事宣言！ 進行管理表

生涯学習課長 佐藤 敦美

重点事業の概要 [事業名：勝尾城筑紫氏遺跡保存整備事業]

- この事業は、リープロ6「多様な文化が息づくまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みである文化財の保護と活用を図るために実施する事業です。具体的には、勝尾城筑紫氏遺跡の保存及び整備活用を進め、地域の活性化に寄与します

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	平成25・26度に引き続き、史跡の保存整備事業の指針となる整備基本計画に基づき、葛籠城跡地区の公有化事業の取り組みとして、対象地の立木調査や追跡調査を実施し、地権者との買収交渉を進めた。
	自己評価	対象地の立木調査や追跡調査を行うとともに、地権者との交渉を進めている。
	下半期への対応	葛籠城跡地区の保存整備事業を推進させるため、引き続き地権者の方の理解を得るように努め、計画的な公有化を進めていく。また、10月から葛籠城跡地区の一部について史跡の状況を把握する確認調査を実施する。
下半期	取組実績	葛籠城跡地区の本年度予定分について、地権者の方の理解・協力をいただき、公有化を行った。また、昨年度に引き続いて葛籠城跡地区の重要遺構確認調査を実施し、史跡の未解明部分の把握に努めた。
	自己評価	地権者の理解・協力を得ることに課題が残り、計画の見直しを行った。
	目標値の達成状況	概ね目標どおりに進捗している。
	次年度への対応	葛籠城跡地区の保存整備を推進させるため、引き続き地権者の方の理解・協力を得るように努め、計画的な公有化を進めていく。葛籠城跡地区の確認調査の成果をまとめた調査報告書を作成して史跡の整備活用につなげていく。

教育長（リープロ担当部長）の指示

上半期

- ・公有化計画を踏まえて、地権者の理解を得ながら、今年度計画分の立木調査や追跡調査、買収交渉等を速やかに実施すること。

下半期

- ・公有化に向けて計画の見直しを行った分については、引き続き地権者の方の理解・協力を得られるように努めること。
- ・勝尾城筑紫氏遺跡保存会等の意見を踏まえて、葛籠城跡地区の確認調査の成果をまとめた調査報告書を作成に向けて努力すること。

生涯学習課長の仕事宣言！ 進行管理表

生涯学習課長 佐藤 敦美

重点事業の概要 「事業名：ふるさと元気塾事業」

- この事業は、リープロ6「多様な文化が息づくまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みである文化財の保護と活用を図るために実施する事業です。具体的には、勝尾城筑紫氏遺跡などの文化財や地域特性を活かしたまちづくりを推進するため、市民を対象に、その担い手となるボランティアガイドやアドバイザーを育成します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	4月に「ふるさと元気塾」をふるさと元気塾に委託して開講した。22人の会員は、自主的に月1回鳥栖の歴史・文化を学ぶ学習会を行うとともに、5月17日開催の勝尾城筑紫氏遺跡の春の見学会に際しては、事前研修を経てボランティアガイドの活動を行った。
	自己評価	概ね計画どおりに進展している。 月1回の学習会を通して、鳥栖の歴史・文化への理解からさらに踏み込んで、これらの保護と活用へ向けた取り組みへの関心が会員に広がりつつある。
	下半期への対応	引き続き鳥栖の歴史・文化を学ぶ学習会を行うとともに、勝尾城筑紫氏遺跡の秋の見学会に向けて、ガイド研修を行う。また、弥生まつりやクロスロード文化研究会などの各種活動に参加し、鳥栖市域の歴史・文化への啓発活動を進めていく。
下半期	取組実績	上半期に引き続き、自主的に月1回の鳥栖の歴史・文化を学ぶ勉強会を行い、現地研修を2回行った。 11月29日開催の勝尾城筑紫氏遺跡の秋の見学会では、事前に研修を実施し、会員16人が史跡ガイド活動に従事した。
	自己評価	ボランティアガイドは、多くの見学会参加者から好評を得ており、ガイド活動により本史跡への関心・理解を高めることができた。
	目標値の達成状況	勝尾城筑紫氏遺跡見学会で新たな散策ルートを設定するなど、自主的かつ積極的に活動した。また、月例勉強会や現地研修では鳥栖の歴史や文化財の理解を深め、文化遺産を活かした自主的なボランティア活動の方策を検討した。
	次年度への対応	文化遺産を活かしたまちづくりを推進するため、勝尾城筑紫氏遺跡ガイド研修や鳥栖の歴史・文化を学ぶ勉強会を継続する。また、近隣市町の団体との交流等も通して、自主的なボランティア活動の機会を増やしていく。

教育長（リープロ担当部長）の指示

上半期

- ・鳥栖の歴史・文化を学ぶ学習会やふるさと元気塾実行委員会の協力を得て、ボランティアガイドやアドバイザーの育成を図ること。
- ・秋の勝尾城筑紫氏遺跡見学会に向けての啓発活動を行い、成功に努めること。

下半期

- ・「ふるさと元気塾」の市民の認知度が、まだまだ低い面が多いと考える。もっと広報活動に努めること。毎年同じような取り組みを行い、同じような評価が上がっているようだが、もっとボランティア活動が充実、発展できるように努めること。

生涯学習課長の仕事宣言！ 進行管理表

生涯学習課長 佐藤 敦美

重点事業の概要 [事業名：各種講座・展示会開催事業]

- この事業は、リープロ6「多様な文化が息づくまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みである歴史的資料の保存・公開を図るために実施する事業です。具体的には、市民を対象に、古文書講座や歴史講座の開催や、展示会等による文化財の公開活用を行います。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	4月に古文書講座（全24回）を、6月に「鳥栖の集落と道」をテーマに鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座（全8回）を開講した。9月末現在、古文書講座は延べ170名、歴史・文化講座は延べ158名の参加者があった。また、5月より市立図書館に郷土資料コーナーを開設し、文化財の常設展示を始めた。9月末までに3回の展示入替えを行い、多数の観覧者が訪れた。
	自己評価	概ね計画どおりに進展している。古文書講座、歴史・文化講座ともに毎回多数の参加者があり、新たな参加者も増えてきている。また、文化財常設展は新聞・テレビ等で紹介されたこともあり、多くの市民が歴史的文化遺産に関心を持って見学に訪れている。
	下半期への対応	引き続き多数の方が参加できる充実した内容の講座等の開催や文化財の一般公開・見学会等を行うとともに、市立図書館郷土資料コーナー常設展示の内容を充実させて、郷土の歴史的文化財に対する市民の理解を広めていく。
下半期	取組実績	今年度は、古文書講座に延べ360名、歴史・文化講座に延べ280名の参加があり、勝尾城筑紫氏遺跡見学会（春・秋）は150名、装飾古墳見学会は延べ230人、268号機関車公開は400人の来訪者があった。また、市立図書館に開設した郷土資料コーナーの文化財常設展示に多数の観覧者が訪れた。
	自己評価	講座、見学会、常設展示に多数の参加者・観覧者があり、鳥栖市の歴史的文化遺産についての理解を広めることができた。
	目標値の達成状況	今年度の講座参加者延べ640名、見学会の参加者780人に、市立図書館の常設展示に訪れた多数の観覧者を加えると、目標値の1,500人を大きく上回った。
	次年度への対応	引き続き本市の歴史的文化遺産を活用した内容の講座、見学会等を開催して、郷土の歴史や文化に対する再認識や理解を広める機会を提供していく。また、市立図書館常設展示の内容を充実させるとともに、講演会・シンポジウムやギャラリートーク等のイベント実施について検討する。

教育長（リープロ担当部長）の指示

上半期

- ・計画的な講座の開催に努めるとともに、魅力ある講内容になるように努めること。
- ・展示会場が限られている中、市民の方に歴史的文化遺産に関心を持っていただくように展示内容の創意工夫を行うこと。

下半期

- ・それぞれの講座で、目標値をクリアできているが、来年度は、新たな目標値を設定し、魅力ある講座や展示に心掛けて、充実した取り組みを進めること。

生涯学習課長の仕事宣言！ 進行管理表

生涯学習課長 佐藤 敦美

重点事業の概要 [事業名：所蔵資料の集約・活用]

- この事業は、リープロ6「多様な文化が息づくまちづくりプロジェクト」に位置付けられた取組みである歴史的資料の保存・公開を図るために実施する事業です。具体的には、本市の歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない市民共有の貴重な歴史的文化遺産である文化財を保護し、後世に伝えていくため、所蔵する資料の整理・集約を進め、適正な保管に努めるとともに、積極的な活用を図ります。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	市内3カ所に分散している文化財資料の集約・整理を進めた。とくに文化財展示活用施設に再整備を計画している古野文化財収蔵庫については、前庭の樹木伐採等を行うなど施設周辺の環境整備を進めた。
	自己評価	概ね計画どおりに進展している。文化財資料の整理・集約では、新たに定めた出土遺物取扱い基準に基づき効率的な収蔵を進めている。
	下半期への対応	古野文化財収蔵庫の展示施設整備に向けて、また今後の調査等による資料増加に充分対応できるように、現有文化財の整理・集約を進めて文化財整理室の効率化を図る。
下半期	取組実績	上半期に続いて市内3カ所に分散している文化財資料を新たに定めた出土遺物取扱い基準に基づいて効率的に集約・整理を進めた。また、文化財展示活用施設に再整備を計画している古野文化財収蔵庫については、施設の環境整備を進めた。
	自己評価	概ね計画どおりに進展している。とくに新たな収蔵施設として確保した永吉町の農業集落排水施設跡に、当面の活用の予定は無いが記録保存の立場から保存すべき遺物を多数集約することができた。
	目標値の達成状況	概ね目標どおりに進捗している。
	次年度への対応	所蔵文化財資料の積極的な活用に向けて、次年度に計画している旭収蔵庫の資料を移転して古野文化財収蔵庫の展示施設を整備するとともに、今後の調査等による資料増加に充分対応できるように、現有文化財の整理・集約を進めて文化財整理室の効率化を図る。

教育長（リープロ担当部長）の指示

上半期

- ・コンテナ約9000という膨大な文化財等について、効果的な文化財再整理・集約が出来るように、計画と見通しを立てること。
- ・古野町文化財収蔵庫を文化財の展示活用に向けて再整備に向けて取り組むこと。

下半期

- ・膨大な文化財について、旭収蔵庫、永吉町の農業集落排水施設、古野文化財収蔵庫等への効率的な集約・整理を更にすすめること。
- ・市民の要望が高い古野文化財収蔵庫展示活用に向けて、準備等を確実にやり、古野文化財収蔵庫の環境整備を図ること。